

令和6年度 長崎県立西彼農業高等学校 学校評価表

教育方針	長崎県教育方針に基づいて、高等普通教育と農業・家庭に関する専門教育により、専門的知識や優れた技術を身に付けさせるとともに、豊かな自然を守り、命の尊さや個人の尊厳を重んじ、公共の精神を身に付け、我が国や世界の平和と発展に貢献しようとする調和のとれた人間を育成する。
学校教育目標(目指す理想像)	①学校像 保護者や地域から信頼され、元気な笑顔と思いやりに溢れた校風と開かれた学校 ○生きる力を養成し、新たなことにチャレンジ ○笑顔と元気なあいさつ、コミュニケーション ○思いやる心に溢れる魅力的な校風、訪問したい学校 ②生徒像 命を育み、命の大切さを体感して自他共に尊重し、多くの経験をとおして自信を持ち、社会で活躍できる生徒 ○学習や様々な活動により、前向きに発展させる意欲 ○進路や将来の目標に向けて積極的に取り組み実現 ○社会の一員として自己認識し、貢献できる人格形成 ③教職員像 お互いに支援協働し、保護者や地域と連携しながら全ての生徒に効果的な指導ができる教職員 ○お互いを尊重し、働きやすい職場づくりの推進 ○協働し、諸課題を解決していくチームワーク ○心身共に健康で人間性に溢れ、信頼される教職員
本年度の努力目標	(1)学習の指導等 ○学力や技術を習得する中で自信を持ち、発展的に応用できる能力を養成する。 ○先進機器や教材を効果的に活用し、社会で利用する知識や技術を身に付ける。 ○継続的に学ぶ重要性を認識させ、家庭や進路学習、また生涯学習に繋げさせる。 ○キャリア教育を推進し、積極的に資格取得やインターンシップに取り組ませる。 ○国内外情勢について役割を認識させ、実社会で生きていく思考判断を養成する。 (2)生徒への指導 ○基本的生活習慣や規範意識、持続可能な社会の一員として必要な力を養成する。 ○多くの体験や指導により将来への目標を持たせ、個々に合わせた支援を行う。 ○優しさや思いやりを醸成し、いじめや暴力、差別や偏見の無い認め合う心を育てる。 ○美化や安全衛生に対する意識を持たせ、また、自ら健康管理できる能力を養う。 ○農業クラブ活動や部活動において社会性・人間性を高め、さらに自信を持たせる。 (3)学校の運営 ○生徒の教育や地域交流の場として、利活用できる施設・設備の運営に努める。 ○信頼される学校運営に努めるとともに、地域に誇りと愛着を持つ教育を展開する。 ○教職員自らが先進性や発展性を持ち、生徒へ影響力のある教育を展開する。 ○教職員が情報共有した理解のもとに、働きやすい学校運営を展開する。 ○教職員が協働できる学校運営により、校内外により効果的な教育活動を継続する。

※「評価」の各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。

4:十分達成できている

3:おおむね達成できている

2:どちらかというと達成できていない

1:ほとんど達成できていない

【評価分野】 1 学校経営									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準		中間	総括	成果と課題
学校教育目標	教育目標（目指す人間像）の明確化	教務	学校教育目標を学校内外に明確に示し、90％以上の保護者がその目標を理解してもらうことを目指す。	・育友会総会、評議員会で説明する。 ・HP等を使って広報に努める。	教育目標を理解している保護者が90％以上であった。	4			教育目標を示すタイミングとして育友会総会があるが、そもそも出席率が悪い。総会資料を丹念に見てもらえれば理解できると思うが、そこまで目を通されない家庭もあるかと思う。そんな中でもアンケートでの評価は「3.1」、推定で77％の方が理解されている。新入生オリエンテーション等で丁寧な説明を心がける。
					教育目標を理解している保護者が80％以上であった。	3			
					教育目標を理解している保護者が70％以上であった。	2			
					教育目標を理解している保護者が70％未満であった。	1			
【評価分野】 2 教育活動									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準		中間	総括	成果と課題
道徳・人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	相談	学校からいじめを撲滅するため、学期毎に年3回の「いじめ・悩みアンケート」を実施し、いじめの早期発見を目指す。	・アンケート結果をもとに、学級担任・学年・生徒指導部と連携しながら該当生徒への面談を実施する。 ・「いじめ・悩みアンケート」の内容を生徒が記入しやすいように工夫する。	計画どおりアンケートを実施し、早期発見に十分効果があった。	4			アンケート実施後、相談部・担任と連携し、気になる生徒への面談を実施することができた。また、SSWに繋ぎ、面談を実施していただき早期解決に繋げることができた。悩み調査だけではなく、日頃の生徒の様子を十分に観察し、素早く適切な対応ができるよう掛けたい。
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があった。	3			
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があがらなかった。	2			
					計画どおり実施出来なかった。	1			
教育相談	カウンセリングの充実	相談	悩みを抱えている生徒や、支援を必要とする生徒への組織的な対応の充実を図り、早期対応、早期解決をする。	・対象生徒の面談結果をふまえ、生徒・保護者へ適切な指導・助言を行う。 ・心的要因が考えられる場合は、専門医を紹介する。	適切に対応ができ、十分な効果があった。	4			SSW、外部機関、学校、保護者との連携がとれ、問題の早期解決につながり、生徒も充実した学校生活を送ることができていた。 全ての生徒との面談を実施し、年間を通じてサポートできるよう、分掌で計画的に取り組みたい。
					適切に対応ができ、おおむね効果があった。	3			
					適切に対応が十分にできず、効果もありみられなかった。	2			
					適切に対応ができなかった。	1			
進路指導	進路指導の充実	進路	生徒一人ひとりの進路実現を図り、1月末の進路決定率90％以上を目指す。	・1・2年生は、学期に1回の進路調査を行う。進路セミナー・ガイダンスを開き啓発に努める。 ・3年生については、定期的に担任会を開き、進路検討を行う。 ・きめ細かい個人面談、添削指導を行う。	計画どおり実施し、進路決定率90％以上を達成した。	4			履歴書の書き方や面接の事前指導などLHR時間での時間がほとんどなかった。4回の進路テストも実施はしているが活用する場面がなく、必要性が感じられなくこの時間を今後、事前指導に活用できたらと思う。 6月の進路ガイダンスは1・2年生の生徒にとって有意義な時間になったと感じた。 2年生の就職希望者とCSSとの面談の機会を設け、次年度の進路指導につなげることができた。
					計画どおり実施し、進路決定率85％以上を達成した。	3			
					ほぼ計画どおり実施したが、進路決定率が80％以上であった。	2			
					計画どおり実施できず、進路決定率が75％未満であった。	1			
		進路	3年間で1つ以上の資格を取得した生徒が80％以上になることを目指す。	・全校あげて、必ず1つは資格取得を目指す。	1つ以上の資格を取得した3年生が80％以上であった。	4			3年間で80％以上を達成できたが、履歴書等で無資格になる生徒は8人いた。
					1つ以上の資格を取得した3年生が75％以上であった。	3			
					1つ以上の資格を取得した3年生が70％以上であった。	2			
					1つ以上の資格を取得した3年生が70％未満であった。	1			
特別活動	読書活動の推進	図書	図書の貸出冊数が生徒一人当たり2冊以上になることを目指す。	・放送を活用し、生徒の来館を呼びかける。 ・計画的な図書購入を行い、図書の充実にも努める。	生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊以上であった。	4			1月20日現在で生徒一人当たりの貸出冊数は2.9冊であった。 ・図書事務の方に環境整備をいただいているおかげもあると思う。 ・古すぎる書籍が多いので、入れ替えを計画的に実施できた。 ・図書委員会活動を活発にするために、図書室掃除を図書委員（全学年）で実施すること、その監督に図書担当職員が付くことを提案します。図書委員会活動の時間が確実に取れます。
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊であった。	3			
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が1冊であった。	2			
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が0冊であった。	1			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒指導	遅刻者数を昨年度より、30％以上減少させる。	・全校集会時に「時間厳守」の重要性について指導する。 ・学期初めの3週間、全職員における登校指導を行う。 ・遅刻常習者については、担任、生徒指導部と連携して個別に指導を行う。	遅刻者数が昨年度より30％以上減少した。	4			・遅刻者数は56名であり昨年とほぼ変化はなかった。 ・遅刻常習者に対する個別指導が甘かったので次年度は強化していきたい。
					遅刻者数が昨年度より20％以上減少した。	3			
					遅刻者数は昨年度とほぼ同じであった。	2			
					遅刻者数が昨年度より増加した。	1			
	社会性規範意識の涵養	生徒指導	品位ある服装を指導し、90％以上の生徒が高校生らしい服装をしていることを目指す。	・服装、頭髮検査を毎月1回行う。 ・職員の意思統一を図るために、研修会を学期に1回行う。 ・校則違反については、イエローカード指導を徹底する。	高校生らしい服装をしている生徒が90％以上であった。	4			・年間を通して服装に関して全職員協力して指導することができた。 ・イエローカード指導に関しては96件の指導があったが、内容を見ると特定の生徒が多く指導を受けている状況にあり、全体の1割程度であった。
					高校生らしい服装をしている生徒が80％以上であった。	3			
					高校生らしい服装をしている生徒が70％以上であった。	2			
					高校生らしい服装をした生徒が70％未満であった。	1			
	美化や安全衛生	農務	美化や安全面に対する意識を持つ生徒が90％以上になることを目指す。	・更衣室が整理されるよう指導する。 ・道具の管理を徹底する ・特に実習時のケガ、事故がないよう指導する。	美化・安全衛生意識を持つ生徒が90％以上であった。	4			更衣室指導の徹底が十分でなかった。更衣室指導も実習指導の一つとして農業科の意識を高める必要がある。
					美化・安全衛生意識を持つ生徒が80％以上であった。	3			
					美化・安全衛生意識を持つ生徒が70％以上であった。	2			
					美化・安全衛生意識を持つ生徒が60％以上であった。	1			

部活動	部活動の活性化	農業クラブ	部活動の活性化と定着化を図るため、全校生徒の活動率80%以上を目指す。	・生徒には、部活動の意義や目的、継続の意義を理解させる。 ・部活動調査を定期的に行い、体育部・文化部・専門部の活性化を図る。	部活動活動率が80%以上であった。 部活動活動率が70%以上であった。 部活動活動率が60%以上であった。 部活動活動率が60%未満であった。	4 3 2 1			食品加工部など専門部については積極的な活動がみられた。ソフトテニス以外の総合運動部の活動については行事の関係で2月は実施できなかった。活動のあり方等を検討したい。
生徒会活動	生徒会活動の充実	農業クラブ	農業クラブ活動を理解させるため、各行事、大会の案内、報告を毎月1回掲示する。	・生徒玄關の掲示板や、外掲示板を活用し、生徒へ情報を発信する。 ・生徒の主体的活動を促し、農業クラブの活動内容を積極的に広報する。	月1回の掲示ができ、広報内容も充実していた。 月1回の掲示はできなかったが、広報内容が不十分であった。 月1回の掲示ができず、広報内容が不十分であった。 計画的な掲示ができず、広報内容も不十分であった。	4 3 2 1		○	今年度は北部九州インターハイ前の活動(学校推進委員活動)は動画制作を含め積極的に取り組んだが、2学期以降の広報活動に課題があった。次年度以降は農業クラブ(生徒会)活動としてのSNS利用(情報モラル)についても取り組んでいきたい。
健康教育	健康教育の推進	保健	基本的な生活習慣を見直し、毎日朝食を摂る生徒が90%以上になることを目指す。	・生徒向けに学期1回、生徒の朝食の摂取状況を調査する。 ・調査結果は、保健だよりで生徒、保護者へ周知するとともに、ポスターで意識の向上に努める。	毎日朝食を摂る生徒が90%以上であった。 毎日朝食を摂る生徒が80%以上であった。 毎日朝食を摂る生徒が70%以上であった。 毎日朝食を摂る生徒が70%未満であった。	4 3 2 1		○	目標の90%は達成できなかった。年間を通して朝食をほとんど食べない、まったく食べない生徒が一定数いるため、食事の必要性(特に朝食)については、今後も継続的に意識づけしていく必要がある。
環境教育	環境教育の推進	環境美化	環境教育を積極的に推進するため、教室の整理整頓及びゴミの分別を徹底させる。	・毎日の取り組みとして、①掃除をはじめに美化・生活委員が教室等のゴミ箱の点検を行う。②ゴミは掃除担当等の生徒が、すぐゴミステーションへ持って行く。③美化委員がゴミステーションでのゴミの分別を行う。	充分できた。 だいたいできた。 あまりできなかった できなかった	4 3 2 1		○	全体的に良く取り組めた。
教科指導	専門教育の充実	農務	キャリア教育を推進させる。	・外部講師等による教育の推進 ・校外見学研修等の実施	各科6回以上実施した。 各科5回以上実施した。 各科4回以上実施した。 各科3回以上実施した。	4 3 2 1			食料サイエンス科が昨年に引き続き、実施回数が計画に比べ極端に少ない。今後、いろいろな状況をふまえて実施計画を立てて実施すべき。
専門教育	資格取得の充実	農務	・3年間で農業系の資格取得をした生徒が80%以上になることを目指す。	・専門の授業の中で資格取得の大切さを教え、取得に向けての指導を各科目で行う。	1つ以上の資格を取得した生徒が80%以上であった。 1つ以上の資格を取得した生徒が70%以上であった。 1つ以上の資格を取得した生徒が60%以上であった。 1つ以上の資格を取得した生徒は50%以上であった。	4 3 2 1		○	農業検定の合格率が思わしくなかった。資格をとる生徒は複数とり、取る生徒と取らない生徒に分かれる場面がある。級にこだわらず、簡単な級から取らせて、意欲をわかせる方法も必要かと思われる。
【評価分野】 3 組織運営									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
校内研修	教職員の資質向上への取組み	教務	教員の教科指導力を向上させるため校内研修を実施し、「わかる授業」を展開する。	・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・校内研修を実施し、授業の改善を図る。	計画どおり実施でき、充実した内容であった。 計画どおりに実施できたが、まずまずの内容であった。 計画どおりに実施できたが、十分な内容ではなかった。 計画どおりに実施できず、不十分な内容であった。	4 3 2 1		○	校内研修は実施できなかったが、Formsを用いた授業評価は実施でき、各先生方に見ていただいた。各先生方で授業評価を分析してもらい、「わかる授業」に繋がってもらっている。
【評価分野】 4 教育環境									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
学校環境の整備	学校環境の美化	環境美化	校舎内外の美化を徹底する。各学期に3回以上の大掃除をする。	・大掃除のときに、毎日行っている掃除で出ていないところを中心に取り組ませ、美化委員に点検させる。	充分取り組んでいた。 だいたい取り組んでいた。 あまり取り組めていなかった。 取り組めていなかった。	4 3 2 1	○	○	少ない人数ではあったが、校内の美化に従事できた。
施設・設備の管理	学校施設の充実と環境整備	事務	校内敷地巡視を月1回行い、危険・不備箇所を早期発見し、迅速に修繕・改修行う。	・手持ち予算で対応できるものは、1週間後までに修理完了、その1週間後までに支払いを完了し、随時記録する。 ・予算要求を要するものは、1か月以内に予算要求する。	毎月巡視を行い、全てを修繕・改修できた。 毎月巡視を行い、予算要求中以外は改修・修繕できた。 毎月巡視は行ったが、改修・修繕できなかった箇所がある。 毎月の巡視が行えず、改修・修繕できなかった箇所もある。	4 3 2 1		○	毎月の巡視や安全点検等を元に、修繕の計画を立てているが、全ての案件に方策のとおり対応するには時間と予算とも不足している状況であるので、優先順位を決めて対応を進めている。

【評価分野】 5 開かれた学校づくり									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準		中間	総括	成果と課題
保護者との連携	育友会活動の充実	教務	学校の教育活動に対する保護者の理解を深めるため、積極的に情報を発信し、三者面談、育友会、活動への出席率75%以上を目指す。	・育友会活動への参加を呼びかける。 ・メールメイトを活用して早期に案内を行う。	育友会活動と三者面談への平均出席率が75%以上であった。	4	○	育友会総会の出席率が低かったが、三者面談については全員が実施できている。三者面談期間の設定が短く、生徒数の多いクラス担任の先生の負担が大きかったので、令和7年度は期間を長めに取り、ゆとりを持たせたい。	
					育友会活動と三者面談への平均出席率が65%以上であった。	3			
					育友会活動と三者面談への平均出席率が55%以上であった。	2			
					育友会活動と三者面談への平均出席率が45%未満であった。	1			
情報提供	情報提供の充実	情報管理	学校の教育活動・地域連携等の情報をHP上で月4回以上発信する。	・学校の教育活動において行事ごとに情報を発信する。 ・地域連携等の情報を積極的に発信する。	HPを月4回以上発信し更新できた。	4	○	月に平均すると6.4回の発信ができた。しかし、農務の先生の協力がなければ回数は激減すると思われる。来年度も農務の先生でHP用の写真を撮影できる方を必ず入れてほしい。	
					HPを月3回以上発信し更新できた。	3			
					HPを月2回以上発信し更新できた。	2			
					HPを月1回以上発信し更新できた。	1			
地域貢献	専門教育の地域貢献	農務	農業高校の教育力を示すため、県立学校地域開放講座で、参加者の満足度90%以上を目指す。	・最終日に受講者アンケートを実施する ・担当科目の専門性を高め受講者が満足していく教材を準備する。	大変に満足したの割合が90%以上であった。	4	○	例年とおりたいへん好評。今年度は小学生の参加が3名。	
					大変に満足したの割合が85%以上であった。	3			
					大変に満足したの割合が80%以上であった。	2			
					大変に満足したの割合が75%以上であった。	1			
		農務	専門分野で生徒の農産物生産及び加工品製造を活用し、地域貢献をはかる	・農産物生産、製造実習では、商品販売を意識した実習を行う。 ・授業で生徒の理解度を深める。	活動が十分取り組めた。	4	○	例年通りの活動ができた。	
					活動がほぼ取り組めた。	3			
					活動があまり取り組めなかった。	2			
					活動が取り組めていなかった。	1			
地域の農業高校としての存在価値	西海市と連携した研究活動の推進	農務	西海市と連携した農業科の活動を行う。	・希少植物の保護・移動動物園・草花の植栽活動・近隣学校との連携などの活動計画を立て、西海市に貢献できる活動を行う。	充実感、達成感を感じた生徒の割合が80%以上で、その活動が地域に貢献した。	4	○	地域への貢献度が部門により差がある。各部門、関わることであれば、学校としての活動も活発化すると思われる。	
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が70%以上で、その活動が地域に貢献した。	3			
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が60%以上で、その活動が地域に貢献した。	2			
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が50%以上で、その活動が地域に貢献した。	1			
【評価分野】 6 生徒の教育成果									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準		中間	総括	成果と課題
学力の定着・向上	家庭学習の定着	1年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が50%以上になることを目指す。	学習時間が1時間未満の生徒および補講が必要な生徒は、次の考査前に放課後残して学習会を開き最低1時間学習させる。	1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	4	○	○	7月調査83% 2月調査71% 学習時間が、1学期より減少している。2学期末考査前と学年末考査前に、欠点保持者や課題未提出者を対象に、学習会を実施したが、残れない理由を言って不参加の生徒がみられる。また、バス時刻の関係で、佐世保方面の生徒が残って学習できなかった。 次年度は、家庭学習の意識づけが必要である。
					1時間以上学習した生徒が40%以上であった。	3			
					1時間以上学習した生徒が30%以上であった。	2			
					1時間以上学習した生徒が30%未満であった。	1			
		2年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が70%以上になることを目指す。		1時間以上学習した生徒が70%以上であった。	4	○	○	7月調査63% 2月調査51% 一部の生徒は別として、全体的に学習意欲が減退しているのは明らかである。入学時から学力の低さが目立つ学年ではあったが、努力しなくても簡単に就職できるという安易な意識が生徒に蔓延していることも一因なのではないか。この3月には、学年による面接指導（礼法、声出し等の初歩的な内容）を計画している。進路決定は決して甘くはないということを骨身にしみこませることで、学習への取り組みにも少しは良い変化が起きると思われる。
					1時間以上学習した生徒が60%以上であった。	3			
					1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	2			
					1時間以上学習した生徒が50%未満であった。	1			
		3年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が80%以上になることを目指す。		1時間以上学習した生徒が80%以上であった。	4	○	○	7月調査71% 2月調査63% 1学期、2学期と学習時間も伸び、成長している感があったが、進路決定後の3学期に学習意欲の失速が感じられた。学年末考査まで、卒業するまで向学心を持続させる手だてが必要である。できれば、スタディ・アプリの活用などを考えたい。
					1時間以上学習した生徒が70%以上であった。	3			
					1時間以上学習した生徒が60%以上であった。	2			
					1時間以上学習した生徒が60%未満であった。	1			